

2019 保健大学

おとなのワクチン第4回 「インフルエンザワクチン」



講師：
宮田智仁 副院長



みなさんこんにちは。おとなのワクチン4回目は「インフルエンザワクチン」のお話です。

実はこのワクチンは予防効果としてはそれほど高い効果がありません。6歳未満の小児の発症予防効果は60%であり、65歳以上の高齢者では34~55%程度となっています。「ワクチンを打つたのにインフルエンザに罹った。」という声をよく聞きます。

一人の予防効果はあまり高くない

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的に急速に現れるのが特徴です。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。重篤な合併症に、子供ではインフルエンザ脳症・高齢者や免疫力の低下している方では二次性肺炎があり毎年命を落とされる方がいます。

そんな効果の低いワクチンは接種しても無駄だと思ふかもしれませんが、反対にみんながきちんと接種することがとても大切なのです。

「ONE TEAM」みんなで流行を防ぐ

集団免疫率という数値があります。ある疾患に対してどのくらいの免疫をその集団が持っているか感染拡大を防ぐことができるかという数値です。インフルエンザの集団免疫率は50%とされています。つまり100人の集団のうち免疫をもった人が50人いれば、その集団では大きなインフルエンザの流行が起こりません。

NEJM : The Japanese Experience with Vaccinating Schoolchildren against Influenza

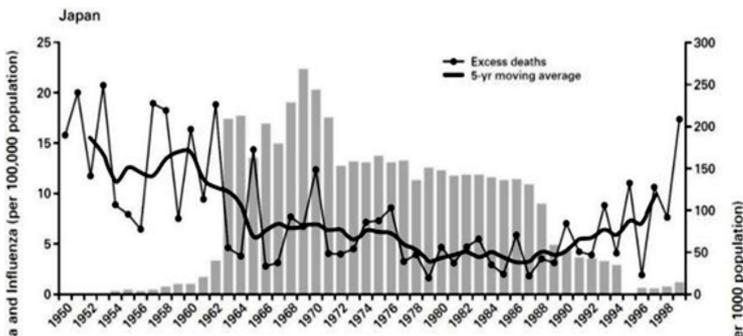


図1、インフルエンザ集団接種とインフルエンザによる死亡者の推移

学童の集団接種が高齢者の死亡減少に

過去にインフルエンザワクチンは学童生徒を対象に集団接種をしていた時期がありました。1962年〜80年代頃までの期間です。私も当時保育園に集団で集められて次々に注射を打たれる恐怖の体験を覚えています。実はこの集団接種を

していた時期は高齢者のインフルエンザによる死亡が少なかったことが統計的にわかっています(図1)。子供たちが全員ワクチンを接種した恩恵が高齢者の死亡減少につながっていたのです。

その後のインフルエンザ流行による死亡者数の増加から2001年から65歳以上の方や60~64才の特定の疾病・障がい有する方などにに対してインフルエンザワクチンが定期接種B類とされました。

自治体により自己負担額は異なりますが、津市では65歳以上の方は自己負担が1200円(令和1年度の価格)で接種可能となっています。お得な値段で接種可能なインフルエンザワクチン。自分の為でなくみんなの為にこれからもワクチンを接種していきましょう。

今回は、2020オリ・パラ対策としても注目を集めている風疹の話をしていきたいと思います。